

## 第8回臓器移植に係る情報システム作業班 議事要旨

### 1. 日時

令和8年1月16日（金）書面開催

### 2. 構成員

#### ○意見提出者：

小尾 高史（班長）、佐藤 一郎、徳武 康雄

#### ○回答者：

日本臓器移植ネットワーク（JOT）

### 3. 議題

心臓の移植希望者（レシピエント）選択基準（以下「選択基準」という。）改正に伴う E-VAS 改修の検証について（結果報告）

### 4. 結果

選択基準改正に伴う E-VAS 改修の結果報告について、意見交換の後、了承された。

### 5. 構成員からのご意見およびこれに対する回答

#### 小尾構成員：

- 「不明な部分については、開発会社側に確認し問題ない事を確認しました」とあるが、具体的にどのような内容だったのか。詳細設計との乖離や仕様見落としなどは無かったのか。  
→ **JOT 回答：**不明な部分とは仕様等の見落としではなく、ソースコードが PL/SQL と C# で書かれているため、プログラム間の繋がりなど、ソース分析をスムーズに進めるための開発会社確認となるため、詳細設計との乖離や仕様見落としはなかった。
  
- 「テスト結果についても、結果内容、バグ頻度、バグ内容の確認を行い」とのことだが、テスト密度とバグ密度が、今回の開発規模の範囲に収まっていることやテストを進めるにあたり不具合数や不具合解決数がどのように変化したかのチェックは行っているか。  
→ **JOT 回答：**テスト結果については、結合テストと総合テスト完了後に開発会社と工程移行判定会議を実施しており、改修規模から算出したテスト密度、バグ密度が範囲内であることと、バグ内容や対処方法についても全て報告を受けており、JOT で確認を行っている。

**佐藤構成員：**

- 動作検証のパターン網羅性には懸念があるが、想定されたパターンでは適切に動作しているため承認する。補足として、基準の条件分岐とコードの対応関係が分かりにくく、ミスを誘発しやすいので、次期更新時には改善を望む。
- **JOT 回答：**基幹システムの再構築の際には、点数による重み付けを撤廃し、条件判定ロジックを用いた、複数の BRMS（ビジネスルールマネジメントシステム）によるダブルチェックを検討している。

**徳武構成員：**

- 正しい処理であること（得られた結果が適切であること）を確認した旨は表明されているが、具体的なデータやバグ対応などの処置内容が分からない。確認したデータ件数、パターン件数や、途中のバグ発生に対する対応（管理）状況などの概要は説明されており、確認時の詳細情報は別途保持されているか。なければ問題発生時の検証のため保管すべき。
- **JOT 回答：**ご指摘の通り、テストに用いた具体的なデータやエビデンスにつきましては情報量が多いため、電子ファイルにて保持している。
  
- 承認欄の記載漏れや提出資料の誤字などがあり、作業班への資料推敲・再確認を行うべき。
- **JOT 回答：**ご指摘いただいた点については、すべて修正のうえ反映した。